

## 日本教科内容学会第7回研究大会（紙面開催）プログラム

○会期：2020年8月7日（金）

○形態：紙面開催

○参加費：会員 2000 円、学生会員 1000 円、一般 2000 円

### (1) 総会（メール会議）：（予定）12：00～13：00

メール会議のこの日時は、本年度は授業日の方も多いかと思いますので、予定としておきます。総会日時は改めてメールにてご連絡いたします。なお審議に時間を要する案件が提示された場合、再度総会をメール会議にて開催する可能性があります。

### (2) 個人研究発表

1	渡部発表「教師の授業に大きな影響を与えるのは本当に教科内容なのか」に対する若干の考察（伊藤裕康：文教大学）
2	改訂タキノミーの活用で深い学びをめざす課題のあり方について（岡崎安秀：三木市立中吉川小学校）
3	保育者養成教育におけるピアノ弾き歌いの指導内容とは何か（小栗祐子：東海学院大学）
4	謎解き読みによる「盆土産」（三浦哲郎）の作品解釈—家族の「きずな」「温もり」に代わるもうひとつの全体解釈—（梶原郁郎：山梨大学）
5	幼稚園教諭養成課程における「領域に関する専門的事項」に求められる内容構成—モデルカリキュラムに基づく「幼児と音楽」授業内容の検討—（金奎道：高知大学）
6	遠隔授業による音楽教育の可能性（桑原章寧：貞静学園短期大学）
7	音楽科教育から見た教員の実践力の育成に関する実践的研究（董芳勝：創価大学）
8	教職大学院（教科領域）における科目開設と教科内容構成の試案—FK 大学大学院修士課程から教職大学院への移行に際する課題意識から—（榊原浩晃：福岡教育大学）
9	SDGs の視点による社会科・英語科の協働的授業開発研究—ボルネオの森林破壊と自然保護を題材として—（鈴木正行：香川大学）
10	比例、比と割合についての考察（友松幹雄：聖徳大学）
11	教職大学院における科学館を活用した教育実践科目の提案（花木良：岐阜大学、吉井貴寿*：熊本大学）
12	教職大学院教育における理科内容の研究 其の 2—「知の理論」の導入に向けた検討（原健二：東京学芸大学）
13	小学校音楽科の教科内容に架橋する教員養成における鍵盤楽器の授業構成（溝口希久生：和歌山信愛大学）
14	ジョセフ・シュワブ（J.J. Schwab）の科学的探究論と理科の教科内容構成との関係についての考察（胸組虎胤：鳴門教育大学）
15	教科専門科目「保育学」における保育実習の検討（室雅子：相山女学園大学）

16	中学校の音楽科授業における英語活用の可能性（宮澤多英子：神田女学園中学校・高等学校）
17	小学校理科と算数における教科横断的な指導の開発－「流れる水の働き」と「単位量当たりの大きさ」の関連に着目して－（山中謙司：北海道教育大学旭川校、谷地元直樹*）
18	教科内容の視点からみた中学校音楽科鑑賞領域の授業におけるワークシートの検討－教師の「問い」に注目して－（横山真理：東海学園大学）
19	教科横断的な探究型学習にみる教科内容の関連（渡邊真一郎：畿央大学）

（\*）非会員：氏名右上に\*が記されている方

### (3) 課題研究 I・II 発表

<p><b>課題研究 I・II：「教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発—教科内容構成とシラバスの提案（10教科）—」</b></p> <p><b>(1) 趣旨：西園芳信（聖徳大学特命教授）</b></p> <p>教員養成大学・学部の教育課程においては、免許法の改正（2017年11.）で「教科の内容及び構成に関する科目」を新たに設定することとされ、また大学院修士課程の教科教育分野は、教職大学院に移行することが推進され伝統的な教科専門の教育内容を教職大学院のカリキュラムに即したものとして開発することが求められています（中教審答申「これからの学校教育を担う資質能力の向上について」（2015年）等）。このようなことから教員養成大学・大学院においては従来の教科専門を捉え直すことが喫緊の課題になっています。</p> <p>本学会は、この課題に応えるために「教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発」のプロジェクト研究（5ヵ年計画で現在5年目）を設置し、「各教科の教科内容の体系性と全教科を俯瞰した体系性（教科内容学の原理）の究明」によって教員養成のための教科内容構成のモデルとシラバスを提案することを目的に推進してきました。この度、その研究成果を報告書として冊子にまとめました。その内容は、次の通りです。</p> <p>序章 わが国の教員養成における教科専門の背景と課題、第一部 教員養成における教科内容学研究、第1章、教員養成における教科内容学の研究の歴史、第2章、教員養成における教科内容構成開発の原理、第3章、全教科を俯瞰した教科内容の体系性（全教科の教科内容に共通する原理）第二部 教科内容構成開発の具体（10教科）（小学校・中学校、教職大学院のシラバスと授業実践の展開例）第三部 教科内容構成の観点からの学習指導要領の検討（10教科）、終章 教員養成における教科内容学研究の意義と展望。</p> <p>そこで今回は、この報告書を関連分野の専門家に事前に読んでもらい、特に「教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発—各教科の教科内容構成とシラバス—」を中心に批評をいただき、というのがこの課題研究の趣旨です。なお、開発した「各教科の教科内容構成とシラバス」は、教員養成において課題となっている「教科専門」と「教科教育」を関連させた授業創出の設計図になるものです。</p> <p><b>(2) 課題研究 I</b></p>
---

- 提案：教科内容構成とシラバス（小学校・中学校・教職大学院）の提案（5教科）
- 各教科の教科内容構成とシラバスの提案および批評
- ①数学：松岡隆（四天王寺大学教授）＋批評者
- ②美術：新井知生（島根大学教育学部教授）＋批評者
- ③国語：村井万里子（鳴門教育大学教授）＋批評者
- ④社会：下里俊行（上越教育大学教授）＋批評者
- ⑤家庭：平田道憲（広島大学名誉教授）村上かおり・鈴木明子(広島大学教授)、富永美穂子（広島大学准教授）＋批評者

### (3) 課題研究Ⅱ

- 提案：教科内容構成とシラバス（小学校・中学校・教職大学院）提案（5教科）
- 各教科の教科内容構成とシラバスの提案および批評
- ⑥理科：佐藤勝幸・胸組虎胤（鳴門教育大学教授）＋批評者
- ⑦音楽：中島卓郎(信州大学教育学部教授)＋批評者
- ⑧英語：松宮新吾（追手門学院大学国際教養学部教授）＋批評者
- ⑨技術：菊地章（鳴門教育大学教授）＋批評者
- ⑩体育：荒木秀夫（徳島大学名誉教授）綿引勝美・松井敦典(鳴門教育大学教授)＋批評者
- 提案：全教科の教科内容を俯瞰した教科内容学の原理：浪川幸彦（椋山女学園大学客員教授）
- 討議

(\*)『発表要旨集』には、各教科の代表者合計10名の方、西園芳信氏、浪川幸彦氏、以上12名の発表要旨が掲載される予定です。

### (4) その他

・発表要旨原稿締切日・学会発表資料締切日の確認をお願いします。提出後の印刷依頼等ありますので、締切日時厳守をお願いします。締切日時を過ぎても、発表要旨原稿の提出がない場合、発表取り消しといたします。様式確認の上、丁寧に作成された原稿を提出いただきますようくれぐれもお願いいたします。

発表要旨原稿締切	7月7日(火)17時
学会発表資料締切	8月7日(金)17時

・参加申込締切日は「5月22日(金)17時」でしたが、参加申込をご希望される方は、梶原のアドレス (ikajiwara@yamanashi.ac.jp) まで、その旨ご連絡お願いいたします。参加申込締切日は「6月30日(火)17時」とします。この日までに参加費を、「(口座番号) 01630-2-41374、(加入者名) 日本教科内容学会」まで郵便振り込みをお願いします(次頁参照)。

・今回の参加者とは、発表要旨集(≠学会発表資料)の送付を希望する方を指します(総会のみに参加される方については、参加費は今回不要です)。

[\*] 参加申込に関する諸事項（第2号通信添付資料）

(1) 参加費

	種 別	参加形態	○を付ける	費 用
大 会	正会員	参加のみ		2,000
	正会員	参加+発表		2,000
	学生会員	参加のみ		1,000
	学生会員	参加+発表		1,000
	会員以外	参加のみ		2,000
参加費合計				0

(\*）個人情報は大大会の連絡のためのみに使用します。

参加費の振込先(郵便振込)は次の通りです。すでに5月23日メールにてお伝えしましたように、第二号通信添付資料①の口座番号(016302-2-41374)が誤っていました。「016302」の「2」は不要でした。訂正後の下記口座番号、改めてご確認をお願いします。

- 口座番号 : **01630-2-41374**
- 加入者名 : 日本教科内容学会
- 振込用紙に「第7回研究大会(紙面開催)参加費」と記入して下さい。
- **6月30日(火)**までに振込んで下さい。

(2) 参加申込票

申し込み日：2020年 月 日

受付用(準備委員会用) 月 日

氏名	
所属	
連絡先	(住所)
	(e-mail)
	(TEL)

2020年6月20日

日本教科内容学会第7回大会準備委員会  
委員長 梶原郁郎(山梨大学)  
準備委員 原健二(東京学芸大学)